

阿波ブランドの開発・確立支援事業

ヒジキ養殖試験

牧野賢治・團 昭紀・荒木 茂・平野 匠

近年、外国産ワカメの輸入の増大により単価が下落，付着珪藻の増加，雨不足による色落ちなどで，ワカメの単価がますます下がり，漁業者の収入が減少したという問題を抱えている。当研究所ではこのような問題を解決するために，ワカメ漁場の調査、ワカメの優良品種作出研究を試みているところである。本研究はワカメに変わる藻類養殖として，日本ではまだ試みが少ないヒジキの養殖に着目し，その養殖技術の確立を図ることを目的とした。

材料と方法

前年度に引き続き，限られた漁場面積で，より多くのヒジキを生産できる養殖技術を検討した。試験区は6つ設定した（表1）。10m×40mワカメ養殖枠に設置し，生長を比較した。

表1 ヒジキ養殖試験区

試験区	20 cm間隔でヒジキを5本づつ差し込む
試験区	10 cm間隔でヒジキを1本づつ差し込む
試験区	5 cm間隔でヒジキを1本づつ差し込む
試験区	20 cm間隔でヒジキを5本づつ差し込みのクロス
試験区	10 cm間隔でヒジキを1本づつ差し込みのクロス
試験区	5 cm間隔でヒジキを1本づつ差し込みのクロス

結 果

試験期間は平成16年11月27日から平成17年4月23日までおこなった。その結果，ヒジキの生長、収穫量から比較すると，ロープを2本使用してクロスにする養殖方法は，ロープをシングルで養殖した方法よりも劣っていた。ヒジキ養殖をおこなうのであれば，1本のロープに5 cm間隔で差し込んでするほうが適法であるということが解った。

表2 ヒジキ養殖試験結果

試験区	平均全長 (cm)	平均湿重量 (g)
(N=50)	28.1	43.7
(N=38)	30.4	60.1
(N=51)	38	40.7
(N=35)	24.5	26.1
(N=33)	28.8	31.5
(N=50)	28.9	43.2

表3 各試験区における収穫量の比較

試験区	1mあたりの収穫量 (kg)
	2.35
	1.39
	4.08
	0.64
	1.05
	2.07



写真1 ヒジキの収穫作業風景